

大方中学校

「やる気」「元氣」「輝き」が
あふれる学校に

校長 浜口 和彦

◆はじめに

大方中学校は、現在153名の生徒が在籍しています。明るく素直な生徒が多く、落ち着いた雰囲気です。授業や行事に取り組んでいます。

教育目標を「心豊かで、たくましく、意欲を持って主体的に学ぶ生徒の育成」とし、これまで本校が柱にしていた、人権教育や生徒会活動を大切にしながら、21世紀に生きるために必要な力(資質・能力)を身に付けるための取組を進めています。

◆「やる気」「元氣」「輝き」
本校は伝統的に生徒会活動が活発で、生徒の力で学校を良くしていこうという雰囲気があります。生徒会執行部が考えた月ごとの重点目標に沿って、各専門委員会や代議員会が目標を設定し、生徒全体がベクトルを合わせて取組を進めています。また今年度の生徒会が考えた「やる気」「元氣」「輝き」という



き」というテーマのもと、3年生がリーダーになりながら生徒会タムや学校行事にも取り組んでいます。

1学期末のアンケートでは、「学校生活が楽しい」という質問に91%が、「大方中には楽しいイベントがある」には90%、「係活動や専門部活動に積極的に取り組む」には96%が肯定的な回答でした。

9月に行われた体育祭には、少ない練習時間のなか、応援団や実行委員・各リーダーを中心に、各色や学級でまとまりながら、取り組んでくれました。生徒達の笑顔や「輝き」がたくさん見られた体育祭でした。

◆学力向上に向けて

4月に行われた、全国学力・学習状況調査では、ほとんどの教科が全国平均を上回る結果でした。

今年度は、県教育委員会から「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」の研究指定を受け、言

語能力や情報活用力を高めるための取組を進めています。そのなかで日頃から生徒が図書に触れる機会を増やすため、玄関や廊下にも新聞、パンフレットなども置いてあるので、興味のある資料や本を手にとって読んでいる姿を見かけます。



また、学力向上推進事業「授業づくり講座」の拠点校として、数学を中心とした教材研究会や授業研究会を行っています。8月31日には、文部科学省の水谷尚人教科調査官、山梨大学の清水宏幸准教授、高知県学力向上総括専門官の齊藤一弥先生を講師に、中学校数学授業改善協議会が本校で行われ、郡内外の数学教

員を中心に70名程の参加があり、1年生の数学の授業を公開しました。

◆防災教育

将来の黒潮町の担い手として、防災についての意識や技能を身につけることも本校の重要な役割です。教室などでの防災学習と合わせて、5月には、大方中央保育所、入野小学校、大方高校と保小中高合同の避難訓練を行いました。



避難訓練が終わった後、体育館で黒潮消防署の方から、ケガをした人に対する応急処置や動けなくなった人を搬送する方法なども教えてもらいました。大地震が起きたとき、医療チームがすぐに着るとは限りません。家族や地域の人を救うためのスキル(技能)を、身につけ貢献できることが大切だと考えています。

7月には、下校時の避難訓練を行いました。大地震の発生をどこで経験するか

わかりません。まず揺れから身を守り、その後にはつてくる津波から避難する方法も、その場所、その状況に応じて自分自身が判断する必要があります。これからの防災学習を通して、そういう力を身につけていきたいと思っています。

◆ふるさと・キャリア教育

各学年で総合的な学習の時間を中心に、地域を知り、地域から学ぶ取組を進めています。1年生は、黒潮町について聞き取りや調べ学習をするなかで、町を紹介するビデオの作成を行っています。



11月2日の文化祭で上映する予定です。ぜひたくさんの方に見ていただきます。たださうい

いといます。学習を通して、生徒一人ひとりが地域の良さを発見し、地域と自分との関わりを感じながら、地域や社会に貢献できる生き方につなげていければと考えています。

拳ノ川小学校

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」の育成

校長 上田 壮

◆はじめに

本校は、本年度3名の入学児童を迎え、全校児童15名で教育活動をスタートさせました。本校は豊かな自然の中の学校で、子どもたちも畑で作物を作ったり楮を地域の方と一緒に栽培するなど、恵まれた環境の中で日々生活しています。また、地域も学校に協力的で、子どもたちをいつも温かく見守ってくださっています。子どもたちは、学年の枠を越えて仲が良く、高学年の児童は低学年の児童に優しく関わっています。また集団登校や集団下校の際には地域の方にもしっかりと気持ちのよいあいさつができており、地域の方から嬉しいお言葉もいただいています。



◆学校教育目標

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」を育てることが本校の学校目標です。

すべての教職員が、指導力、想像力、創造力、組織力を発揮し、チーム学校として「知」「徳」「体」のバランスのとれた質の高い教育を実践し、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざしたいと考えています。

◆確かな学力をつける

4月の全国学力学習状況調査において、本校の指標である「全国平均正答率通過率を1.0以上上回る」を国語・算数・理科すべてで達成しました。ただ標準学力調査では算数科に課題があり、特に基礎的事項より条件付きの読解に弱さが見られたため、全職員で分析をし共通理解を図ったうえで学力向上に向けての取組を行っています。まず新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、講師を招聘して年5回の授業

研究を行い、授業改善に努めています。そして月1回の「綴り方集会」で自己表現力の育成を、計算タイムや漢字タイム、自主学習タイムで基礎学力の養成を、週2回の加力学習で個別の指導を行うなど確かな学力定着のために日々精進しているところです。



◆防災教育の充実

本年度、1回目の引き渡し訓練をより実際の状況を想定した内容で実施しました。2回目に向けて「橋が落ちて迎えに行けない場合はどうすればよいか」、「親が迎えに行けない場合の対応」など、保護者の皆さんからたくさん意見をもらい参考とさせていただいています。被害を最小限にするための取組を今後も継続して行っていきます。

◆地域・家庭・学校の三者が連動(連結・協働)したふるさと・キャリア教育の実現

コミュニティ・スクールとしてのあゆみも今年度で14年目となっています。「学び・文化」コミュニティの主な取組は、300年以上の伝統がある「そばまき踊り」の継承、年3回の「読み聞かせボランティア」による本の読み聞かせ、高学年は5月から若山楮の学習を行っているっており、栽培から紙漉きまでの一連の作業から色々なことを学んでいきます。



また昨年度より始まった高知大学協働学部の子生による地域連携事業「水曜プロジェクト」も軌道に乗ってきています。

「自然・環境」コミュニティでは、山の学習親子自然観察、栗拾い、山芋掘りとあけび採り、各学級で収穫したものを使っての収穫祭の実施などを計画しています。

「健康・福祉」コミュニティでは、田植え・稲刈り、サツマイモ栽培、三世代ふれあい検診、高齢者施設訪

問などを行います。

豊かな自然を生かしたさまざまな体験や地域の方々との温かいふれあい体験は、子どもたちの心を育み、自然や地域への愛情や感謝の気持ちをも育んでくれます。今後も黒潮町で進めているふるさと・キャリア教育と拳ノ川コミュニティ・スクールをリンクさせながら、将来町を離れたとしても常に心の中にあることが息づいている、そんな大人になれるよう学校・家庭・地域の三者が連動して取組を進めていけるようがんばっていきます。



◆おわりに

全校児童15名を中心として本年度は9名の教職員スタッフが一枚岩となって教育活動に取り組んでいます。◎ころやさしく、①ゆるさをほこれ、②ゆたいたい活動でき、③うりよくを發揮し、④からだをきたえを大切にすることを「◎①②③④」の子どもたちを目指して今後努力して参りたいと思っています。